

障害児の家族を含めた保健・医療ケアに関する研究

分担研究報告書

分担研究者 日暮 眞（東京家政大学・児童学科）

研究協力者 中村安秀（東京大学・国際地域保健学）

小枝達也（鳥取大学・教育学部・障害児病理）

恩河尚清（沖縄県・宮古保健所）

恒次欽也（愛知教育大学・特殊教育教室）

高田谷久美子（山梨医科大学・看護学科）

大田綾子（石垣市教育委員会）

安藤厚子（東京家政大学・児童学科）

研究目的

障害児をもつ家族、とくに父親と母親における育児不安、育児環境の現状把握を行い、障害児をめぐる育児環境整備のための施策立案に資する目的で以下の調査研究を行った。

研究の概要

本分担研究班は、主課題として（１）障害児学童保育に関する研究、（２）障害児ケアに関する質的分析の２課題を柱に据え、加えて（a）心身障害児を持つ母親の対児感情に関する検討、（b）沖縄県離島（宮古地域・八重山地域）における障害児ケアのあり方に関する検討の各個研究課題について調査研究を行った。

以下に各研究課題について述べる。

（１）障害児学童保育に関する研究

現在、学童保育施設は全国に8,605ヶ所といわれており、そのうち障害児の学童保育を実施しているところは、3,000余の自治体のうち約29%にすぎない。障害児の放課後対策として大きな意味をもっているにも拘らず、実施しているところの少ない障害児学童保育施設の実態を把握し、障害児受け入れのための条件整備に資する目的で本調査研究を行うこととした。次年度に大規模調査を行うためのパイロットスタディとして54施設より調査回答を得た。初年度で研究体制の立ち上げが遅れ、調査期間の制約があったため回収率が必ずしも良好とはいえなかったが、それなりの成果は得られた。その詳細は後述するが、これらを基にして本調査を次年度実施する予定である。

(2) 障害児ケアに関する質的分析

現在、障害児をめぐる保健医療ケアに関する外的整備は、かなり充実してきている。一方、障害児をもつ家族、とくに母親や父親における子育て不安や育児環境の現状に関して十分な調査報告がなされていない。そこで、このことに関する質的に高い情報を得る方法論を検討する事を目的に本研究を実施した。その結果、Focus Group Discussion (F G D) に焦点を当てることとし、次年度より F G D を用いて調査研究を行うフィールドとそこでの研究体制づくりを行った。次年度から、沖縄・鳥取・東京のフィールドを対象に F G D 法を用いて障害児をもつ家族側の状況調査を行うこととした。

(3) 各個研究

(a) 心身障害児をもつ母親の対児感情に関する検討

障害児のトータルケアを考える際、日常的に障害児に接している母親への支援がきわめて重要となる。母親が子どもに対してどのような気持ちを持っているかを知ることは、ケアの出発点であるとの視点から「対児感情評定尺度」を用いて母親の対児感情を測定報告した。

(b) 沖縄県離島における障害児ケアのあり方に関する研究

宮古地域障害児の実態調査とその家族の意識調査を行う。あわせて、宮古地域の障害児をみると、転居等の移動が多く、訓練を含めケアの実を上げ難い面がある。この原因を探り、障害児ケアプランの策定に資する予定である。

八重山地域では、かつて地域にある唯一の養護学校が障害児ケアのネットワークづくりの拠点となる兆しがあったが、挫折してしまったので、ネットワークの再構築をはかる努力をしたいとの報告があった。

研究報告の詳細に関しては、以下の各研究課題ごとの報告を参照されたい。